

- I. エペソ第5章が啓示しているのは、召会が花嫁であって、キリストの願いを満足させ、彼のかたちをもって彼を表現するという事です。エペソ第6章が啓示しているのは、新しい人としての召会が団体の戦士であって、神の統治権のために、地上における神の権益のために戦うということです(こうして、創世記第1章26節における神の永遠の定められた御旨を成就します):
- A) エペソ第5章と第6章において私たちは、召会が花嫁であり、また戦士でもあることを見ます。啓示録第19章にも、召会のこれら二つの面があります。啓19:8 彼女(花嫁)は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である。
- B) 啓示録第19章7節と8節において私たちは、花嫁が「輝く清い細糸の亜麻布」を着ているのを見ます。それから14節において私たちは、主に従って戦う軍勢が「白くて清い細糸の亜麻布を着て」いるのを見ます。これらの節が示していることは、花嫁の婚宴の礼服が、彼女が神の敵と戦うために神の軍勢として着る制服でもあるということです。
- C) 召会は花嫁として、愛と光を必要とします。召会は戦士として、大能と神のすべての武具を必要とします。
- II. エペソ第6章10節から20節が啓示していることは、神の団体の戦士としての召会、一人の新しい人のために、キリストが神の武具の構成要素であるということです:6:13 神のすべての武具を取りなさい。それは、あなたがたが邪悪な日にあって抵抗することができ、またすべてのことをやり抜いた後も、なお立つことができるためです。
- A) 「最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです」(6:10-11):①私たちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、私たちが自分の中では霊的戦いを戦うことができないことを示しています。私たちは主の中で、また彼の力強い大能の中でのみ戦うことができるのです。②神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであって、からだのどんな個々の肢体のためでもありません。私たちは、個人としてではなく、からだの中で、霊的戦いを戦わなければなりません。③エペソ第2章で、私たちはキリストと共に天上で座っています。第4と第5章で、私たちは地上で、彼のからだの中で歩いています。そして第6章で、私たちは天上で、彼の力の中で立っています。④キリストと共に座るとは、彼が達成されたすべてにあずかることです。彼のからだの中で歩くと、神の永遠の定められた御旨を完成することです。彼の力の中で立つとは、神の敵に對抗して戦うことです。
- B) 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」(6:14 前):①エペソ第6章14節の「真理」は、私たちの生活の中の実際としてのキリストにある神、すなわち、私たちの生活の中で、私たちによって実際化され経験された神のことを言います。これは実は、私たちによって生かし出されたキリストご自身です。②私たちが帯として締める真理は、実は私たちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、パウロはすべての反対と逆境に立ち向かう力を持っていました。
- C) 「義の胸当てを身に着け」(6:14 後):①キリストは義の胸当てとして、胸で表徴される私たちの良心を覆います。私たちを訴える者であるサタンと戦うとき、私たちは血によってきよめられた良心、すなわち、とがめのない良心を必要とします。②「兄弟たちは、小羊の血のゆえに、…彼に打ち勝った」(啓12:11)。サタンの訴えに対する私たちの応答は次のようであるべきです、「訴える者であるサタンに私が打ち勝つのは、私の完全さによってではなく、とがめのない良心によってできなく、小羊の血によってである。私は義の胸当てによって、彼の訴えから守られている。」
- D) 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」(6:15):①キリストは私たちのために十字架上で、神との平和と人との平和をつくられました。そしてこの平和は、私たちの福音となりました。平和の福音は、確固とした土台として、私たちが足にはく備えとして、確立されました(エペソ2:13-17)。②私たちは平和の中で立つことによって、霊的戦いを戦います。もし私たちが私たちと神の間の平和、あるいは私たちと他の信者たちの間の平和を失うなら、戦う立場を失います。
- E) 「なおその上に、信仰の盾を取なさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」(6:16):①燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。私たちは信仰の盾を取って、これらの燃える火の投げやりを消す必要があります。②私たちは信仰の霊を活用して、服従させられ復活した意志をもって、主の現れが悪魔のわざを破壊するためであることを信じる必要があります。③私たちは信仰の霊を活用して、主の死がサタンを滅したことを信じる必要があります。④私たちは信仰の霊を活用して、主の復活がサタンを辱めたことを信じる必要があります。⑤私たちは信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力よりもはるかに高いことを信じる必要があります。⑥私たちは神を信じなければなりません。神は真の、生ける、現在の、便利な方です。マルコ11:22 神への信仰を持ちなさい。⑦私たちは神の心を信じなければなりません。私たちに対する神の心は常に良いのです。神は私たちに罰したり、傷つけたり、損失を被せたりする意図はありません。⑧私たちは神の言葉信じなければなりません。神は偽ることができず、常に自分の言葉に対して信実です。⑨私たちは神の能力を信じなければなりません。⑩私たちは神の言葉を信じなければなりません。神はご自分が語ったことすべてを成就するよう縛られています。⑪私たちは神のみこころを信じなければなりません。⑫私たちは神の主権を信じなければなりません。神の主権の下で、私たちの失敗でさえ働いて益となります。
- F) 「救いのかぶとを受け取りなさい」(6:17 前):①救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、私たちの思い、思考を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおい、神の救いです。②サタンは私たちの思いの中に、恐れ、脅迫、思い煩い、心配、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗して私たちが取るおおいです。そして、この救いは、私たちが日常生活の中で経験する救うキリストです。
- G) 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を」受け取りなさい(6:17 後):①神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、外側の敵と内側の内敵を攻撃するためのものです。私たちは剣をもって、外側の敵と主観的な内側の内敵を寸断します。②その霊また言葉としてのキリストは、私たちに攻撃の武器としての剣を供給して、私たちの存在の中の消極的な要素を打ち破って殺します。私たちが御言を祈り読みするとき、最終的に、最悪の敵(自己)が死に渡されます。③「ロゴス(logos)」(聖書の恒常的な言葉)が、私たちに「レーマ(rhema)」(その霊の、現在の即時的な生ける個人的な語りかけ)となると、このレーマは内敵を寸断する剣です:a. 私たちが言葉とその殺す力を取り入れれば取り入れるほど、ますます私たちの高ぶり、私たちの内側にあるすべての消極的な要素は死に渡されます。祈り読みすることによって、内側の内敵はほふられます。b. エペソ第5章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします。しかし、エペソ第6章では、言葉は殺すためであり、召会が霊的戦いに従事することができるようにします。
- H) 「すべての祈りと願い求めによって…どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」(6:18):①祈りは、神の武具の七番目の項目と考えられます。なぜならそれは、私たちが他の項目を適用する手段であるからです。②祈りは、神の武具としてのキリストを適用する唯一の道です。祈りは、私たちが武具を実際的に用いることができるようになります。③私たちはうまずたゆまず(根気の限りを尽くして)祈る必要があります。なぜなら、祈りは戦いと関係があるからです。神とサタンの二者は互いに敵対しています。第三者は、神の選ばれ贖われた民から成っています。④私たちは神の側でサタンと戦うために、うまずたゆまず祈る必要があります。このようにうまずたゆまずいる必要があるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです。⑤私たちはうまずたゆまず祈ろうとする前に、まず自分の祈りの生活について主に誓願を立てるべきです。私たちは彼ご次のように言う必要があります、「主よ、私はこのことについて必死です。私は自分自身をあなたにささげて、祈りの生活を持ちます。主よ、私を祈りの霊の中に保ってください。もし私がこれを忘れたり、軽視したりしたとしても、あなたはそれを忘れないことを私は知っています。祈りについて私に何度も思い起こさせてください」。⑥うまずたゆまず祈ることには多くの益があります:a. 祈りは、私たちが思いを上にあるものに置くことができる唯一の道です。b. 祈りとは、至聖所へと入り、恵みの御座に進み出るための道です。それは私たちがあわれみを受け、恵みを見いだし、時機を得た必要を満たしていただくことができるためです。私たちが祈って、恵みの御座に近づくと、恵みは川となって私たちの中を流れ、私たちに供給します(詩歌557番)。c. 私たちは祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験し、ますます主の臨在を享受し、ますます主との交わりを持ちます。これは何というすばらしい褒賞でしょう。

### 経験①: 霊的戦いにおいて、主の中で力づけられ、小羊の血による義の胸当てによってサタンの訴えから守られる

力づけられなさいという命令は、私たちが自分の意志を強く働かせる必要があることを暗示しています。霊的戦いのために力づけられようとするなら、私たちの意志は強くあり、活用されなければなりません。私たちはくらのげのように、意志が弱くてゆらいでいる者であってはなりません。実は、意志の強い人は、最も悔い改めることができる人です。私たちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、私たちが自分の中では霊的戦いを戦うことができないことを示しています。私たちは主の中で、また彼の力強い大能の中でのみ戦うことができるのです。第6章10節でパウロは、力、大能、力強いと言っています。まず、私たちは、キリストを死人の中から復活させ、彼を万物の上にかしらとならせた力によって力づけられます。その時、私たちは神の大能と力強さを知ります。私たちが暗やみの権力に敵対して戦おうとするときはいつも、サタンは彼の訴えを通して、私たちの良心をとて鋭敏にならせます。これらの感覚は、実は良心の敏感さではなく、サタンの訴えの結果です。直ちに私たちの応答は次のようであるべきです、「訴える者であるサタンに私が打ち勝つのは、私の完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。私は義の胸当てによって、彼の訴えから守られている」。私たちが自分の義によってではなく、私たちの義としてのキリストによって覆われます。…私たちが経験の中で、血をキリストから分離することはできません。キリストは彼の血から離れて、私たちを覆うことはできません。彼の血の清めの下で、彼は私たちの義となるのです。

#### 中高生編

エペソ6:10 最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。14 …義の胸当てを身に着け、

クリスチャン生活は霊的戦いの生活ですので、中高生の学校生活も霊的戦いの生活です。例えば学校生活でいじめや罪の快楽に関する誘惑があります。これらは神の子供であるあなたを、信仰において弱らせるためにサタンから来ている攻撃です。あなたは信仰と意志を用いて、主の中で力づけられる(Be empowered in the Lord)必要があります。ですからあなたは弱さの中に留まることを愛してはいけません。主があなたの中に住んでおられ、いつでもあなたを力づけることができます。あなたの意志は弱くあってははいけません。あなたの主の中にある前途は輝いており、栄光です。サタンの策略は、主の中にあるあなたがサタンよりも強いことを見せないようにし、あなたが主から離れて自分自身の中で学校生活を送るようにすることです。あなたはこのように祈ってください、「悪魔サタンよ、天然の私はお前よりも弱い。しかし主の中にある私はお前よりもはるかに強く高い。私はお前の騙す策略には乗らない。私は主の中で主の復活と昇天の力によって力づけられる。私は兄弟姉妹と共に、霊の中で力づけられ、戦いのためにしっかりと立つ。それは私が証しのある学校生活を送り、一人の新しい人を建造するため！」

啓12:10 …私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。11 兄弟たちは、小羊の血のゆえに、…サタンに打ち勝った。またあなたはイエスの贖いの血の永遠の効力を信じ受け入れてください。例えばサタンはあなたに、「男女の隔てを持たず、もっと親密になって楽しくやっていたのではないか?」、「快楽主義の何が間違っているのか? 楽しければそれでいいのではないか?」、「聖書を読んで現実に離れているので役に立たないのではないか? それより新聞を読んだ方がいいのではないか?」などと言ってきます。あなたは決してサタンと会話してはいけません。サタンと会話するとサタンの罠に入ってしまう。サタンと会話するのはなく、信仰によって、サタンの訴えを退けるべきです。サタンの訴えに対する私たちの応答は次のようであるべきです、「悪魔サタンよ、訴える者であるお前に私が打ち勝つのは、私の完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。小羊の血は神の義、聖、栄光の要求を満たし、今、私の良心を覆う義の胸当てである。私はこの義の胸当てによって、お前の訴えから守られている」。

### 経験②: 救いのかぶとをかぶり、信仰の盾を取って、サタンの攻撃から守られる

私たちはみな、神、神の心、神の信実、神の能力、神の言葉、神のみこころ、神の主権を、完全に信じる必要があります。そのような信仰を持つなら、サタンの燃える火の投げやりは、私たちに損害を与えることはできません。燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。…あらゆる誘惑は、欺き、偽りの約束です。…朝、目を覚ました時、しばしばサタンは私たちに提案をします。こういうわけで、私たちは朝、第一に御言に入り込む必要があります。もし私たちが御言の中にいないなら、悪魔の提案に対して何のおおいもありません。エペソ人への手紙第6章17節前半でパウロはさらに、「また救いのかぶとを受け取りなさい」と言います。これは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、私たちの思い、思考を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおいは神の救いです。サタンは私たちの思いの中に、恐れ、脅迫、思い煩い、心配、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗して私たちが取るおおいです。そのような救いは、私たちが日常生活の中で経験する救うキリストです。サタンの投げやりは、私たちの思いを通して来ます。ですから、私たちの良心が義の胸当てを必要とし、私たちの意志が信仰の盾を必要とするように、私たちの思いは救いのかぶとを必要とします。私たちは真理、義、平和、信仰、救いを必要とします。義は平和を生み出し、平和は私たちに信仰を持つ立場を与えます。次に信仰は救いをもたらします。救いのかぶとを信仰の盾から分離してはなりません。盾は私たちの前面を守りますが、かぶとは私たちの頭を守ります。盾とかぶとは共に働きます。

#### 在職青年編

クリスチャン生活は霊的戦いの生活ですので、あなたの在職生活も霊的戦いの生活です。あなたは戦いを避けることはできませんので、戦うのは大変なので戦いたくないと決して言うてはいけません。あなたが戦いたくないと言えば、戦いが無くなるのではありません。戦わなければあなたはサタンの餌食になるだけです。在職生活において、あなたがサタンの餌食にならないために次の二つの極端な道を選んでください。一つは、「私は救われているので一生懸命働くより、楽な仕事に就いて召会生活を楽しんだ方がいい」というものであり、もう一つは、「仕事を必死でやらないと結婚できないし、出世することもできないので、とにかく必死で頑張らなければならない」というものです。あなたはどちらの道も歩んではいけません。あなたは出世や金儲けのためではなく、主の証しのために一生懸命主と共に働く必要があります。しかし同時に主を愛し、召会建造のために六種類の新人に関心を持ち、彼らを顧みるために残業を制限することを学びます。ダニエルが王の次の高い地位に就くことができたのは、彼の出世欲や金銭欲のゆえではありません。彼は主と共に主の中で主のために勤勉に働きましたが、彼が求めていたのは「破壊された宮の再建」でした。彼は日に三度エルサレムの方向に向けて祈っていました。ダニエル書6章を読んでください。

ダニエル6:4 そこで、大臣や大守たちは、ダニエルに対する非難の根拠を国政から見いだそうとしたが、非難や落ち度の根拠を何も見いだすことができなかった。それは彼が忠信であって、何の怠慢も落ち度も彼には見いだされなかったからである。6 そこで、この大臣と大守たちは王のもとに集まって来て、彼にこう言った、「ダリウス王よ、永遠に生きられますように! 7 王国のすべての大臣、長官と大守、参謀と総督たちは、王が一つの法令を制定し禁令を堅く定めてくださることを共に相談しました。すなわち三十日のうちに、王よ、あなた以外のいかなる神にも人にも、祈願をする者はすべて、獅子の穴に投げ込まれるというものです」。10 さて、ダニエルはその文書が署名されたことを知って、自分の家に行った。彼は彼の上の部屋でエルサレムに向かって窓を開けていた。そして日に三度ひざまずき、彼の神の御前に祈り、感謝をささげた。彼は以前から、いつもそのように行っていたからである。13 そこで、彼らは答えて王の前で言った、「ユダからの捕虜の一人、ダニエルは、王よ、あなたと、あなたの署名された禁令を尊ばず、日に三度、祈願をささげています」。21 ダニエルは王に言った、「王よ、永遠に生きられますように! 22 私の神は彼の御使いを遣わして獅子の口をふさがれたので、それらは私を傷つけませんでした。それは、彼の御前で私に罪が見いだされず、王よ、あなたの前でも、私は何の悪も行なわなかったからです」。23 そこで、王は彼のことで大いに喜び、ダニエルを穴から出すように命じた。そこでダニエルは穴から出されたが、彼には何の傷も見いだされなかった。それは、彼が自分の神に信頼していたからである。24 王は命じて、ダニエルを訴えた人たちを連れて来させ、彼ら、その子たち、その妻たちを、獅子の穴に投げ込ませた。